

項目	説明	
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	非根治膵がん患者の治療に対するマルコフ決定過程による最適診療モデルの開発
	研究目的	膵がんの治療法には、主として外科療法(手術)・放射線療法・化学療法(抗がん剤投与)の3つがあり、がんの進行度と全身状態などを考慮して、これらを組み合わせた治療が行われている。非根治膵がん患者に対しては、がんによる症状を緩和する化学療法と、積極的治療を行わず症状を和らげる緩和ケアに徹するベストサポーターケアがある。当センターに保存されている過去の非根治膵がん患者の診療記録データを分析することで、これらの医療行為を多段階最適意思決定過程として数理モデル化し、治療目的に応じて臨床医師の治療法選択を支援するツールを開発する。
	研究対象者	当センター肝胆膵内科で過去7年間に加療を受けた非根治膵がん患者
	研究期間	西暦 2020年5月25日～西暦 2023年3月31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	臨床研究所・客員研究員(筑波大学名誉教授)高木英明
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	臨床研究所がん予防・情報学部
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし